

茨城県、放射性ストロンチウムとプルトニウムの分析結果発表 過去の測定値内に収まる  
 10市町村で微量ストロンチウム 県、福島原発との関連否定  
 プルトニウムも検出 「核実験の影響か」

茨城県は16日、昨年8月4日～10月26日に16市町村で採取した土壌（各1地点の深さ0～5cm）の放射性物質検査の結果、微量の放射性ストロンチウムとプルトニウムを検出したが、いずれも文科省が実施した過去の測定結果の範囲内で、福島第1原発事故との関連は認められなかった、と発表した

県原子力安全対策課は、半減期が約50日と短く、事故との関連の裏付けとなるストロンチウム89が全地点で不検出だったことから「過去の核実験などの影響ではないか」と推測

同調査は、県が放射性セシウムなどの濃度測定のため土壌を採取した38市町村のうち、地域バランスや放射線モニタリングの傾向から16市町村を選定して実施。同原発80km圏にかかる北茨城、高萩、常陸太田の3市は文科省が調査した。

測定の結果、ストロンチウム90（半減期約29年）は10市町村で290～54 Bq/m<sup>2</sup>を検出。プルトニウム239（同約24000年）と240（同約6600年）は11市町で計15～1.3 Bq/m<sup>2</sup>を検出。ストロンチウム89とプルトニウム238（同約88年）は全地点で検出下限値以下だった

文科省が毎年度、全都道府県で実施している環境放射能水準調査では、各地で核実験の影響とみられる微量の放射性ストロンチウムとプルトニウムが検出されている

1999～2008年度の県内での測定結果は、ストロンチウム90：950～72 Bq/m<sup>2</sup>、プルトニウム238：2.1 Bq/m<sup>2</sup>～検出下限値以下、プルトニウム239+240：90～20 Bq/m<sup>2</sup>  
 今回の結果はいずれも過去の測定結果の範囲内だった

【Sr・Pu濃度の測定結果】

	Sr90	Pu239 Pu240
水戸市	—	3.0
日立市	98	1.5
土浦市	290	—
常陸太田市	—	—
高萩市	—	9.2
北茨城市	—	2.4
笠間市	—	1.7
取手市	54	1.6
牛久市	73	1.4
守谷市	69	2.3
筑西市	110	—
坂東市	—	15.0
神栖市	—	5.1
行方市	—	—
鉾田市	—	—
大洗町	220	—
大子町	140	—
美浦村	70	—
阿見町	77	1.3

単位：ベクレル/1平方メートル当たり  
 ※Srはストロンチウム、Puはプルトニウム。  
 「—」は不検出  
 北茨城、高萩、常陸太田の3市は文科省調査

2011年11月01日 茨城新聞 より

16市町村の土壌ストロンチウム調査 県、12月上旬公表へ

福島第1原発事故を受け、県は放射性ストロンチウムの土壌調査を開始した。当面は県内16市町村を対象に、県が以前実施した土壌調査で採取したサンプルを使い、順次測定を進める。結果公表は12月上旬予定

放射性ストロンチウムの測定は専用機器が必要で時間がかかるため、県はこれまで独自の測定を行っていなかった。県原子力安全対策課によると、測定対象は8～9月に放射性セシウム濃度を調べるため土壌を採取した38市町村からこれまでの放射線モニタリングの傾向や地域バランスを考慮して16市町村を選んだ  
 測定は採取済みの土壌サンプルからベータ線検出の専用機器で放射性ストロンチウムを抽出して行い、1検体につき3週間ほどかかるとされる

文部科学省が9月に公表した同原発80km圏の土壌調査では、福島県内で広範囲に微量の放射性ストロンチウムが検出されたが、北茨城、高萩、常陸太田の3市は不検出だった